

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念、ホームビジョンを職員間で共有している。 朝礼等で唱和し支援にのぞんでいる。	理念やホームビジョンを日々唱和すると共に玄関に掲示している。スタッフ同士ペアを組み「会社理念」について発表会を持ち理解を深めている。また、思いやりの気持ちを持ち、利用者や家族に対ししっかりと挨拶をすることも心掛けている。支援の中で気になることはスタッフ間で話し合いを重ね改善にむけて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流の場を心掛けている。 ホーム活動を地区回覧にて周知出来る様に活動している。	自治会費を納めている。社会福祉協議会会報の回覧と区長の来訪時に情報を得て地域の一員として活動している。地区の小学校から月1回7名の児童の来訪があり、利用者「おり紙」、「風船バレー」等で交流の時間を持ち、作品は小学校に飾れるようになっている。また、近くの保育園に利用者が作った「雑巾」を利用者と共に届け喜ばれている。各種ボランティアの来訪も数多くあり楽しいひと時を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	知識向上に努め地域の要望に応えられるように対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催にて、近況報告、意見交換にて委員からの意見を頂きホーム運営に役立っている。	家族代表、区長、介護相談員、広域連合職員、ホーム関係者などの出席で3ヶ月に1回実施している。ホームの近況報告や行事予定の実施報告及び反省、意見交換等が行われ、ホームの運営やサービスの向上に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連携に努め市町村関係者から助言を頂いている。今後も協力関係の継続を行う。	市介護保険課を月に数回訪問し、報告、相談を行い、市主催のキャラバンメイトへの協力依頼なども受けている。介護相談員2名の来訪が月2回あり、利用者や交流の中で頂いた意見等を支援に役立っている。市のグループホーム連絡協議会が立ち上がり、市の会議室で介護保険課職員参加の下行われ、各ホームの責任者間の様々な意見交換の場となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会にて職員が認識を持ち身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	玄関は日中開錠されている。外出傾向の強い利用者については職員が買い物や散歩にお連れし対応している。転倒防止のため家族と相談し、センサーマットを使用することもある。毎月第4週を不適切ケアを意識する週として本社より配布されたマニュアルを唱和しスタッフ間で話し合い拘束のない支援に取り組んでいる。	

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い虐待防止の認識を持ち仕事に従事している。 管理者は日々の観察と防止策に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の場を利用して職員の知識向上に努めている。必要に応じて関係者との話し合いの場を持って支援出来る様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご入居者、ご家族に理解できるよう十分な時間を取り説明をとって不安や疑問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族アンケートの実施やご意見箱の設置をして意見要望に応えられるよう支援を行っている。 運営推進会議で結果の周知も行っている。	利用者個々の1ヶ月の様子を担当職員が写真を添え手紙で報告し喜ばれている。ホームの行事案内も同時に行い家族の参加へと繋げている。面会は様々であるが全家族の来訪があり意見、要望等も気軽にいただいている。家族会を年1回行い、認知症の寸劇、事例発表会の報告、グループに分かれての意見交換など、濃い内容で実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談の機会を設けたり、職員アンケートから出された意見に対しての対応を周知している。 職員の意見は積極的に反映できるよう努めている。	月1回、全体会議とユニット会議があり、意見交換や勉強会を行い運営に活かしている。また、月1回、ホーム長と職員が話をする機会を設けモチベーションアップに繋げている。同じ法人のエリア内他ホームとの交流会やバーベキュー大会、卓球大会などを開催し、気持ち良く働ける環境作りに努めている。本年度は更にエリア内5ホームのスタッフ合同運動会を開く予定がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、昇格の出来る体制を整え、職員がやりがいや向上心を持って仕事が出来る環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修を積極的に参加できるようにしている。職員の力量を把握した研修を行っている。 研修後は会議の場を利用して他職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流により各事業所の利点を含め周知し、ホームの質の向上にも参考にしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子や発言する言葉に耳を傾け安心して生活出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの意見・要望を参考にしてケアプランを作成し、面会時やお便りにて都度報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の近況状況、又は変化時には必ず家族連絡を行い、必要とする支援についてご家族と話し合い対応に当たっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者ひとりひとりを尊重し家族の一員の関係作りに努めている。家事仕事、趣味等を通じて入居者同志の関わりが持てるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを考慮し気軽に訪問でき、ご本人との絆が持てる環境づくりを心掛けている。ご入居者の様子を周知しながら、良い関係をつくり、共に入居者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の訴えや、ご家族様からの情報を大事にして馴染みの人や場所への提供に積極的に努めている。	近所の方や遠方の親戚の来訪があり、お茶をお出しし気軽に話が出来るようにしている。年賀状を出す利用者もいるが職員がお手伝いし作成している。利用者同士、昔話に花が咲くケースも多くあり、居室を行き来し楽しまれている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないよう入居者同志の関わりが持てる様に配慮支援をしている。		

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了においても継続して、ご家族の相談に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者、ご家族の意向を聞き、希望に添える様努めている。	三分の二の利用者がご自分の意思を伝えられる状況である。家族からの情報も参考にしながら一人ひとりに合わせた接し方をユニット会議で確認し取り組んでいる。利用者が答え易いような声掛けと数多く話をするように心掛けている。月1回、レクリエーションも兼ね、希望のおやつ作りやバイキング等の昼食会を実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や慣れ親しんだ生活の継続が出来るよう職員は経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が日々観察の中から、入居者個々の、心身状況や暮らしの中での気づきについて職員間で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係会議の開催にて現状把握を行い課題を見つけ介護計画の作成を行っている。 家族の協力も必要に応じて得ている。	職員は1~2名の利用者を担当している。利用者の様子は日々報告され全職員が現状を把握し、計画作成担当者によりモニタリング表が作成され、3ヶ月に1回のユニット会議でも見直しがされている。状態に変化があれば即時見直しが掛けられている。介護認定の更新の際にも家族の意見を聞き作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を生かしながら職員間で情報を共有し変化があれば介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の状況を常に把握し、ご本人や家族の希望される事に答えられるようにしている。 外部のサービスも積極的に取り入れている。		

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご入居者様の生活の広がりを持って貰う為、地域との関わりを大切にしている。地域の方々が気軽に立ち寄れるよう行事へのお誘いをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携に努め心身の変化時には気軽に相談できるような関係を築き、ご入居者の関係維持が出来る様努めている。	三分の二の利用者はホームのかかりつけ医による月1回の往診で対応し、残りの方は利用前からの医療機関に家族または職員がお連れしている。訪問看護ステーションの来訪も毎週水曜日にあり健康チェックが行われている。また、薬局と契約し、医師、訪問看護師と連携を取っていただき利用者全員の薬の管理をしていただいている。訪問調査時も薬専用の個人ロッカーを整理している姿を見ることができた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に1週間の心身状況を伝え適切な看護や指示が受けられるよう密に情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	病院、医療関係者との関係を大切に、相談、情報交換の場に参加して、入居者の対応について両者感の連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化をご家族の面会を利用し報告を行っている。関係者とも情報共有しながら対応をしている。	重度化の指針については利用契約時に話している。状態の変化に合わせ、家族、医師、ホーム職員で話し合い医療機関に移るか、ホームで最期を迎えるか判断するようにしている。看取り介護の研修会も行い職員の意識統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の場を設け、急変や事故についてマニュアルに添った訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練にて様々な想定での訓練を行っている。	年2回の避難訓練が利用者全員参加で行われている。近くに広域の消防署があり連携が取れており、区長にも訓練に参加していただいている。また、利用者の避難の際には近所の方にも避難誘導のお手伝いをしていただいた。夜間想定での訓練も行い、通報訓練やスプリンクラーの動作確認、消火訓練等も行っている。ホームの在る小口地区の防災訓練にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し、プライバシーを守り、言葉かけや対応に配慮した支援を行っている。	年間計画の中でプライバシー保護の研修会を行い支援に役立てている。呼び方は尊敬と親しみの気持ちを込め「苗字」にさん付けでお呼びしている。利用者、職員、双方の言葉使いや表情が柔らかく、一人ひとりが尊重し合い良好な関係が築かれていることが窺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が気軽に思いや自己決定出来る様、コミュニケーションが取れる様環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の押しつけをする事無く、ご入居者の思いに添った生活が出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望に合わせた身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、盛り付け、片付け等一緒に行い、季節に合わせた食事も取り入れたり、季節の環境を味わう為に、春・秋等ホーム庭にて昼食する楽しみが持てる様工夫している。	ほとんどの利用者が自立しており常食という状況である。食材は週2～3回買い出しに出掛け、利用者が同行する時もある。調理のお手伝いは利用者の出来る範囲で参加していただいている。利用者と職員と一緒に食事を取り、会話のある楽しい食事となっている。月1回はドライブを兼ね外食に出掛け、誕生日にはケーキを作りお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は個々に合わせて提供している。 禁止食は代用品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者への声掛けと力を引出しながら、毎食の口腔ケアを行っている。 ポリデントは週2～3回行っている。		

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を活用し、排泄パターンを知り、排泄の自立に向けて、尊厳に配慮しながら声掛けや、誘導を行っている。	自立の方と介助を必要とする方が半数ずつという状況である。リハビリパンツ、布パンツ、パット併用など様々であるが、適時変えて支援している。夜間、ポータルトイレを使用する方も数名いる。排泄記録シートに記録を残しパターンを掴み、各食事前、午前のお茶の前、午後のおやつの前、就寝時など、一人ひとりに声掛けを行い支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、自然排便を促す為に、牛乳・ヨーグルト・活動の提供を行っている。 便秘気味の方は、医師に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に添えるように努めている。	週、2~3回、入浴している。自立の方が三分の一、見守りの方が半数強、一部介助の方が若干名という状況である。入浴拒否の方もいるが日を変えたり、言葉を変え対応している。利用者が製作した「滑り留めバスマット」を有効に使用している。家族と日帰り温泉に出掛ける方がいたり、ホームでも足湯に出掛け楽しんでおり、季節の入浴剤を使って香を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを理解し安眠できるように生活のリズムと環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明文書をファイルにまとめて有り、スタッフが理解できる様いつでも見られるようにしている。 症状の変化時についての対応も日常的に共有されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を理解し、ご入居者の得意な事を生かした役割作りをしている。 食べたい物の希望に添える様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食の機会を設け、希望する食事が出来る様支援している。 個人希望の外出・外食等を計画し対応に努めている。	日常的には近くのショッピングセンターの中にある郵便局まで散歩を兼ね出掛けている。年間外出計画を基に春のお花見から秋の紅葉見物まで外出を楽しんでいる。個別支援として利用者の希望に合わせて職員と1対1でショッピングをしたりアイスクリームを食べに出掛けている。ホームの夏祭りでは多くのボランティアや近所の方などが来訪し利用者と共に踊りを楽しんだという。	

愛の家グループホーム岡谷幸町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭管理を行っている。買物の希望がある時は本人と共に掛け、金銭の出し入れは行って貰っている。必ず見守り支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望ある方は要望に応じている。手作りの年賀状や暑中見舞いを出す等、ご家族から喜びの声も聞かれる。ホーム内の手作りポストとハガキの設置にて気軽に利用できるよくなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居有ペースでは季節感を感じる装飾をしたり、入居者のホームでの写真を貼る等している。職員と入居者共同作成のカレンダーは、見やすく季節を感じる物となっている。	共用スペースには季節感のある装飾が施され、時季に合わせた7段飾りのひな人形も飾られ季節感を感じることができる。また、壁には利用者の製作した作品と行事の写真が多く掲示され活動の様子を見て取れる。「愛の家の一日の様子」も時間帯別に写真入りで紹介されており来訪された方に良く分かるように工夫がされている。利用者の健康を考えホームの中を歩くことにも力を入れ、何回歩いたか分かる星取表も掲示され利用者の歩姿を見ることもできた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲間同士が会話を持てるよう、居心地の良い場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の安全の確保を行いながら心地良く過ごせる場を常に提供している。見慣れた物、使い慣れた物は本人の安心となっている。	居室入口の名札には歩行能力を色分けで示した折り鶴が着けられ避難時の目印となっている。「青が自立、黄色が声掛け、赤が声掛け介助」というように万が一に備えている。居室への持ち込みについては自由であるのでご自分の生活空間が作られている。また、ポールハンガーが設けられ家族の協力を得て季節によって洋服を入れ替え、その日に着る洋服選びをすることも支援の一環として取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人の力を見ながら、ある力を引出しながら、自立した生活が維持できる様声掛け、支援を行っている。		